



〔講師の紹介〕

角谷栄男（かくたにひでお）認定薬剤師。2007 年に株式会社 MAINJET 設立。現在、新見市 1 店舗（ゆずりは薬局）、岡山市に 2 店舗出店し、西洋医学・東洋医学双方の良さや欠点を見極めつつ、よりの確な服薬指導ができる地域密着の薬剤師としてご活躍中。学校薬剤師（草間台小）としてもよきアドバイザーとしてお世話になっております。

〔講演のまとめ〕

合法ドラッグ、脱法ハーブ、脱法ドラッグ等、薬物の種類によっては罪にならないようなイメージがもてるような呼称もあったが、いろんな言葉で呼ばれていても全て法律に違反している危険な薬物である。警視庁と厚生労働省は「危険ドラッグ」という呼称に変更した。個人の使用・所持も処罰対象となる。

法的な罰則については国によって異なるが、どの国を見てもだんだんと厳しくなっており、危険ドラッグを持っているだけで死刑になる国もある。日本では、覚せい剤所持・使用では、10 年以下の懲役、輸入した場合、10 年以下の懲役または 3000 万円以下の罰金となっている。大麻の栽培は、懲役 7 年以下の罰則となっている。

若者が特に狙われている！

別名を付けて販売するのは、

1. 「危険な薬物」であることをごまかすため。
2. 罪悪感（ざいあくかん）を薄めさせるため。
3. 同じ別名を話す事で、仲間意識を作り上げるため。

若者の好奇心を上手にそそって、
ひそかに近づいてきますよ。



「医薬品」とは身体に良い作用を及ぼす化学物質のこと。「薬物」とは体や精神に悪い影響を及ぼす化学物質のことを示す。薬物にはいくつか種類があり、身体に与える影響が異なるが、いずれにせよ危険ドラッグに変わりない。売る側や使用する側が捕まらないようにするためにバスソルトやお香、アロマとして一見、人体摂取用と思われぬように目的を偽装して販売されている。インターネットや雑貨屋で脱法ハーブとして売られていたこともあるが、時代の変化と共に販売方法も多様化している。

危険ドラッグは、麻薬等と同じ有害な成分が含まれているにも関わらず、ジュースやアルコールに混ぜて飲んだり、吸引したり、抵抗感が感じにくい使用方法であり、また、お子さんのお小遣いでも買えるような数千円の値段で売られているものもある。パッケージもおしゃれなデザインで呼び名もデザイナーズドラッグ、ストリート

ドラッグ、ケミカルドラッグ等と呼ばれ、若者をターゲットとしている。そこには、大人よりも好奇心旺盛な若い人に売った方が、長期間使ってもらえるというねらいがある。

<主な種類と効能>

① 神経を興奮させる薬物：覚せい剤、コカイン

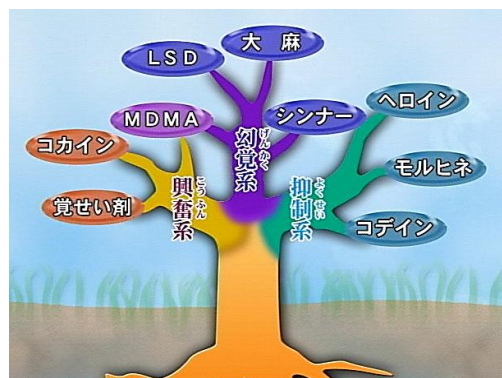
眠気と食欲を低下させる作用。日本では乱用者が多く、特に最近では中高生の間にも広がっている。「これを使うと疲れず、徹夜しても平気だよ」「簡単に痩せられるよ」等と中高生の心に響く言葉で誘われる。

② 神経を混乱させて幻覚を起こさせる薬物：LSD、大麻、シンナー、MDMA

神経を興奮させ、幻覚を起こし、耳や目から摩訶不思議な世界を味わう作用。「アイディアが次から次へと湧くよ」「普段できない体験をさせてあげる」等と紹介される。アシット、ハッパ、ガンジャ、アンパン、ジュントロ等、様々な呼び名がある。エクスタシーと呼ばれる MDMA は見た目もカラフルなラムネであり、抵抗感が低い。どの薬物も自分の体がどうになってしまうのか全く予想がつかない。知らずに友人に飲まされ事故死した事件もあった。

③ 神経を鎮める薬物：モルヒネ、コデイン、ヘロイン

高ぶる神経を抑制する作用。痛みや咳を鎮めるので医療用「医薬品」として治療に使われる。間違って使用すると精神異常者になりやすい麻薬と呼ばれる仲間である。戦時中、特攻隊が使用していたことは有名な実話である。



どの分類も違う作用はあるものの、共通して脳の中心部に作用し、偽の快感を作り出している。脳を無理やり一時的に騙しているのので、効果はあつという間になくなり、繰り返し使用していると同じ量では効果が得られず、量や回数をどんどん増やさないといけなくなるような現象が起こる。

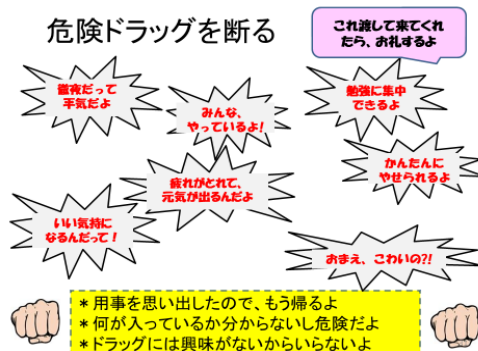
<脳や身体へのペナルティー>

- ① 薬物依存：1 回くらいなら大丈夫と思っていても、また使いたくなり、それを繰り返すうちにコントロールが効かなくなりやめられなくなる状態。いつも誰かに天井から監視されたり、殺してやるとささやかれたりすると言ひ出し、精神が混乱状態に陥る。

- ② 下痢、吐き気、腹痛
- ③ フラッシュバック：薬物を乱用し続けると脳に薬物の記憶が残り、やめていてもちょっとした出来事がきっかけで薬物を使った時と同じような精神の混乱が起きてしまう。このフラッシュバック現象があるため、二度と薬物に手を出さないと心を入れ替えても、何のために苦労してやめたのか、こんなことになるのなら同じじゃないかと再び元のように使ってしまうことが多い。
- ④ 禁断症状：モルヒネ、コカインなどの麻薬を中断した時に、血管、心臓、胃腸など身体の大事な神経を司る自律神経が崩れる状態。

薬物乱用の「乱用」とは、危険な薬物を何度も使うことを思われがちだが、正しくは「薬物を間違った目的や方法で使用する事」である。例え一回でも薬物の不正使用は「乱用」になる。

危険ドラッグを身近に感じない人もいるかもしれないが、「ゲートウェイドラッグ」という言葉があり、主にタバコやお酒、シンナー、脱法ハーブや大麻を示している。つまり、依存性の高いドラッグを使用する初段階には、ソフトな薬物やタバコ、お酒の使用があるということである。このきっかけを防ぐことが重要になる。



一度だけなら大丈夫だという考えは、危険ドラッグの特徴からして甘い考えである。薬物に関わらないようにするためには、誘いに乗らないこと、「NO!」と言えるような教育をすることが大切である。その子の性格によっては、逃げても恥ずかしくないということ、危険なものを勧める人は本当の友達ではないということなどを教えてあげてください。

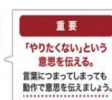
ティーンエイジャーというのは、人間の発達過程で、ゴールデンエイジと呼ばれる年齢であり、将来、生き生きとした生活をおくるためには、神経系の発達が完全に近づく、スキル獲得の最適な時期である今が大切である。

〔保護者からの質問〕 ⑩生理痛、頭痛薬の使用について注意することは何ですか？

- ① ロキソニンやカロナールが代表的な薬。
- ・使用方法を必ず守ること。
 - ・予防として服用することや痛みが治まらず服用間隔が空けられないことはオーバードーズになるので注意。
 - ・稀ではあるが、痛みが治まらない場合は、大きな病気が隠れている可能性もあるので、専門医への受診を勧める。
 - ・生活スタイルの変化やダイエットにより基礎体温が低い子どもが多くなっている。生理痛、頭痛に起因している可能性もあるので健康的な体温とされる 36.5℃程度がキープできるように湯船につかる習慣や朝食を食べる習慣、服装など気を付けることも大切である。



薬物乱用防止
「ダメ。ゼッタイ。」



最後に「本日の話を少しでも参考に、お子さんの体や心を大切に守ってあげてください」と私たちにメッセージをくださいました。